特別養護老人ホーム タムスさくらの杜 一之江 完成

世代間交流を促進する幼老複合施設

社会福祉法人春和会（岡本和久理事長）が東京都江戸川区で建設を進めてきた特別養護老人ホーム「タムスさくらの杜　一之江」が完成し、７月に開業した。80を超える拠点を運営するタムスグループ初の保育園と合築した幼老複合施設となる。「世代間交流」を通じて高齢者の生きがいや共感力を育もうとする施設の設計はＮＣ設計、施工は関東建設工業がそれぞれ担当した。

設計監理：ＮＣ設計　　施工：関東建設工業

地域交流スペース

保育園 廊下

保育園 クラスルーム

社会福祉法人春和会
理事長 岡本　和久

私たちタムスグループは、1993年に江戸川区篠崎町にクリニックを開業して以降、ゼロ歳から100歳までを地域の皆さまの人生に寄り添うことを目指し、医療・介護・保育事業を展開してまいりました。現在は、病院、クリニック、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、認可保育園、乳児院、病児保育室など81拠点を運営しています。

未来へ橋渡す地域の福祉拠点に

この度開設したタムスさくらの杜　一之江は、グループ初となる特別養護老人ホームと保育園の幼老複合施設です。約20年前にフランスで視察した幼老複合施設での、子どもたちを前に明るい表情を浮かべる高齢者と、その温かな笑顔に見守られながら楽しそうにはしゃぐ園児の様子が忘れられず、いつかは実現したいと温めてきました。また、核家族化が進む日本において、高齢者の孤独死、育児ストレスによる親から子どもへの虐待や子ども同士のいじめといった〝孤立〟による社会問題が増加しています。これらを背景に、地域力の創造や高齢者の〝生きがい〟と子どもたちの〝共感力〟を育む「世代間交流」の必要性が提唱される中、地域における福祉の拠点として未来への橋渡しを担いたいと考え、開設に至りました。合築するタムスわんぱく保育園一之江では、医療的ケア児と障害児の常設クラスを江戸川区で初めて設置し「インクルーシブ保育」を実践します。全国でも少ない、ハンデのある子どもと高齢者の「世代間交流」の場を、積極的企画していく所存です。

グループ内で80％以上の達成率を誇る〝オムツゼロ・下剤ゼロ〟を目標に掲げた「自立支援ケア」に取り組み、入居者様のＱＯＬ向上と認知症予防、尊厳の保持に努めるほか、ライフスタイルに合わせて多床室と個室から居室を選択いただき、豊かで安心な生活を実現してまいります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

玄関

設計コンセプト

一之江は江戸川区の中央部に位置し、新中川に面する下町の雰囲気を残した閑静な住宅街で周辺に公園も多く、親水公園や河川敷など緑の多い地域です。

建設地は広大な農地で、高さ制限のある第一種中高層住居専用地域内であり、新中川に近接し、周囲は住宅や中低層マンションなどに囲まれています。これらの周辺環境を踏まえ、地域にふさわしい施設を目指して建築計画を進めてまいりました。

今回の施設は、特別養護老人ホームと保育園の合築施設です。特別養護老人ホーム（定員121人）とショートステイ（定員13人）、保育園（定員61人）、医療的ケア児・障害児保育園（定員10人）で構成されています。

周囲と調和した建物外観に

建物１階には医療的ケア児らを含めた保育園があり、中庭や園庭では、園児と入所者が交流できるようになっています。入居者にとっても、園児にとっても、さまざまなプラス面が期待できます。また１階には、イベントや地域住民との交流の場として、キッチン付きの地域交流スペースを設けています。

２、４階には、ユニット型特別養護老人ホーム（定員80人）、３階には、従来型特別養護老人ホームとショートステイとなっており、従来型特別養護老人ホームは２床室を中心とした構成となっています。入所者、スタッフ、給食などの動線を考慮し、諸室を配置しています。

建物外観は周囲との調和を考慮し、シンプルなデザイン・色調とし、敷地内には駐車場、ポケットパーク、園庭、ウッドデッキテラスを配置しました。

老人福祉のみならず、育児・子育て支援に積極的な江戸川区にふさわしい施設になったと思っております。

本工事においては工期短縮のための杭事前発注や法37条建築制限解除、４月保育所開園のために仮使用申請など、諸条件が厳しい中、竣工を迎えることができましたこと、春和会様、関東建設工業様、協力業者の皆さま、および諸官庁担当課の皆さまに改めて御礼申し上げます。

株式会社ＮＣ設計

施工のポイント

木材高騰に鋼製型枠で対応

現場運営に当たっては、会社の方針に基づき社内管理を徹底させました。具体的な活動として「部署内での教育」「作業所の全員」に取り組みながら、「労働災害の撲滅」「顧客への満足提供」を目指してきました。

工事期間中、木材が高騰していたため、コンクリート打設時はベニヤの代わりに「プリースパンフォーム」と呼ぶ鋼製型枠材を使用することにしました。環境配慮の観点から木材の使用量を減らすことで、工期の短縮にもつながりました。機械浴用のバスはユニット化して現地に設置しました。工場製作とすることで、狭い勝手が良く、水漏れの心配もない製品を使うことができ、結果として現場の生産性向上にも役立てました。

現場周辺は道路の幅員が狭く、大型車両による資機材の運搬や重機の搬出入時には、監視員やガードマンを配置して安全管理を徹底させました。重機は低騒音、低振動型排ガスのないものを選んで使用するなど、周辺環境にも配慮した施工に努めました。

今回の建物は、特別養護老人ホームと保育所を併用するものでした。現場では子ども、大人の両方の利用を想定して異なる仕様を同時に施工することになるため、慎重に作業を行いました。細部に至るまで事業主様、設計者様のご理解、ご協力を得ながら工事を進めることで、無事に建物を引き渡すことができたと思っています。

関東建設工業株式会社
首都圏工事本部
所長　露木　正士

ユニット

工事概要

■工事名：（仮称）特別養護老人ホーム一之江さくらの杜新築工事
■工事場所：東京都江戸川区一之江２－19
■発注者：社会福祉法人春和会
■設計監理：株式会社ＮＣ設計
■施工：関東建設工業株式会社東京支店
■敷地面積：4,231.96㎡
■建築面積：1,835.27㎡
■延床面積：5,802.55㎡
■構造：ＲＣ造
■階数：４階
■工期：2023年１月16日～2024年４月30日

（写真提供：社会福祉法人春和会）